



平成二十九年二月七日  
皇紀2677年  
(西暦2017年)  
第140号

発行：淀姫神社社務所  
〒859-4501  
松浦市志佐町浦免632  
TEL・FAX 0956-72-0653

立春を過ぎましたが

# 春はまだまだです

これを書いているのは二月の七日です。これを書いていっている時点では、北日本では次々と低気圧が通過して、西高東低の冬型気圧配置が現れ、とんでもない大雪に見舞われているところもあるようです。

ここ松浦でも、寒気の流れ込みなどによって時折強い寒さに見舞われますが、昨年のように大変な状況にはなっていません。生活する上ではありがたいことだと思えますが、自然環境の上では果たしていかがなものかと思ったり。

それはともかく、これを書いていっている時点で、長崎県内にはインフルエンザ警報が発表中だったりします。乾燥した日が続くと、感染症のリスクも高まります。特に、インフルエンザは空気感染で、湿度が低いほど広まりやすいもの。なので、なるべく喉を湿らせておくことが有効だといわれています。もちろん、体の免疫力を高めるのは第一ですが、いろいろな予防対策をして、罹患しないように心がけましょう。

# 季節の言葉あれこれ

さて、今回は「季節の言葉あれこれ」です。立春を過ぎ、暦の上では季節は春。ということで、春にちなんだ言葉のご紹介を。

## ◆佐保姫（さほひめ）

初春・仲春・晩春の三春を通じて使われる季語でもある女神さまの名前です。

佐保姫は、春の女神であり、秋の女神とされている龍田姫と対をなしているとされます。古い書物によりますと、佐保姫は

「春の造化の神なり。かたちあるにあらず、天地の色をおりなすをかりに名づけたるなり」

とあるように、姿形はなく、春そのものの色をなす神様であるようです。

春といえは、春霞。そのふわりとした雰囲気からか、白く柔らかな春霞の衣をまとう若々しい女性と考えられているのかなんとか。

中国から伝わった「五行説」では、四方にそれぞれの季節を当てはめるのですが、春は東の方向に配されます。平城京の頃、奈良の都の東にある山にこの

名前を取り入れて「佐保山」と名づけたという説もあるようです。

ちなみに、これには違う説もありまして。そちらはというと。

佐保山に宿るとされた神霊佐保姫を春の女神と呼ぶようになったという、順番が入れ替わっている説もあります。

どちらが正しいかはさておき。

## 秋の女神は龍田姫。

## 春の女神は佐保姫。

この女神さまを覚えておくだけでも、なんとなく情趣あふれる気持ちになれますよ。

# 春祭りのご案内

来る三月十三日に、淀姫神社春の大祭である「祈年祭」こと春祭りが齋行されます。日時は

三月十三日 午前十一時より

淀姫神社社殿において

当日はどなたでもご参拝いただけますので、どうぞお気軽にご来社ください。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。